

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成30年度第1回たかまつ創生総合戦略推進懇談会
開 催 日 時	平成30年8月30日（木）18時30分～20時40分
開 催 場 所	高松市役所 13階 大会議室
議 題	(1)会長・副会長の選任について (2)地方創生関連交付金等に関する効果検証について (3)たかまつ創生総合戦略に関する効果検証について (4)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員 (12名)	佃会長、石田委員、岡崎委員、久保委員、桑島委員、對馬委員、徳倉委員、中橋委員、西森委員、野崎委員、三井委員、山田委員、尾崎オブザーバー
傍 聴 者	1人（定員10人）
担当課及び連絡先	政策課 839-2135

### 会議の経過及び結果

#### **(1) 会長・副会長の選任について**

たかまつ創生総合戦略推進懇談会設置要綱第5条第2項の規定に基づき、委員の互選により会長が、会長指名により副会長が選任された。

会長 佃 昌道 委員・副会長 野田 法子 委員

#### **(2) 地方創生関連交付金等に関する効果検証について**

事務局から、地方創生関連交付金等に係る対象事業についての効果検証方法を説明した。その後、各委員に発言を求め、効果検証を実施した。

主な意見

**推進交付金対象事業No.1：「たかまつ移住応援隊」を軸とした事業展開による移住促進事業**

(委員)

K P I (「たかまつ移住応援隊」の関わる取組を利用したことのある移住世帯数増加分)の実績値が2世帯となっているが、移住応援隊にリーダーとして関わっている者の実感として、これは市が把握している数値であって、実際は、もう少し多いという印象がある。

移住応援隊の取組には、例えば、移住関連のイベントに参加し、その後、実際に高松に転入してきたという方は既に何組もいて、私などは直接のやりとり等を通じて知っているが、こうした移住者を、市の公的な調査では把握しきれていないのではないか。

また、四国や関西圏の自治体では、移住関係のイベントで人集めに苦労しているところも多く、よく高松市の行った首都圏交流会のことを聞かれたりもするので、他都市と比較することも、事業の効果を判断する上で有効ではないか。

(会長)

KPI というのはあくまでも一つの要素であり、これ以外にも事業の効果を判断する上で有効なものがあればここに出して考えていきたい。

また、実際に人口減少が進行している中での目標値・実績値であるということも踏まえて議論していただきたい。

(委員)

県でも、様々な移住促進事業を行っているが、県内市町の移住者数など、県との情報共有は行っているのか。

(事務局)

年1回移住相談や移住者数の件数を報告し、県が県内市町の状況を取りまとめ、報道発表している。

(会長)

情報共有を密にする必要がある。せめて四半期に1回位は情報交換してはどうか。

(委員)

男木島の今の人口は、165人であり、2013年から40人位移住している。

これをカウントするとKPIを達成できている。移住者のカウント方法について検討してはどうか。

(委員)

他都市主催のイベントでは人が集まらない一方で、高松市主催のものには集まっていることは、重要である。こうした数値が上がると、PRしやすく移住のきっかけに繋がってくるのではないか。

(委員)

移住してきた人が、どのくらい定住に至っているかということがこのKPIではわからない。定住に関する指標を今後検討すべきである。

(会長)

懇談会の意見として、指標の設定に検討すべき点はあるものの、全体としては、本事業が総合戦略のKPI達成に有効であったとの評価としてよろしいか。

(各委員)

了承。

### **推進交付金対象事業No.2：「高松盆栽の郷」構想を中心とした盆栽と花き文化の振興対策**

(委員)

高松空港から海外の観光客がダイレクトに立ち寄れるような拠点を整備し、イベントだけでなく常設の場があることをPRすることが必要である。

盆栽には海外という販路が見えているので、きちんとPRして、付加価値があるものは「稼げる」と実感してもらうこと、伝えることが、後継者問題への対策にもつながるのではないか。

(会長)

最近、若い人たちの間で盆栽に興味を持っている人が増え、産業としての可能性は広がりつつある。

一方で、担い手の高齢化も進んでいるので、松盆栽だけではない魅力を知ってもらえるようPRに努めるとともに、外からの視点を取り入れるという意味で移住促進事業との連携も進めていただきたい。

事業の進め方には検討課題もあるが、KPIは目標を上回っており、本事業は有効ということでよろしいか。

(各委員)

了承。

#### **応援税制対象事業No.1：こども未来館わくわく事業体験事業**

(会長)

本事業は達成度も高く有効と認めてよいか。

(各委員)

了承。

#### **応援税制対象事業No.2：サンポート高松トライアスロン大会 開催事業**

(委員)

ボランティアについては、個々のイベントや種目別での参加にとどまっている方が多く、もったいなく感じている。ボランティア活動をしている人同士がつながり、年間を通じてその力を生かせるような仕組みがあると、スポーツを始めとする各種イベントを盛り上げるための市民側の気運も高まると思う。

(委員)

社内にトライアスロン競技に参加している者が複数いるが、皆、屋島スカイウェイはとても走りやすく、トレーニングで登ると清々しい気持ちになると言っている。

また、自転車の練習地として有名な琵琶湖には近隣市町のサイクルロードマップが用意されているようである。高松もトライアスロンの練習の場としてもPRすれば、大会もより盛り上がり、県外からの合宿増加や、観光振興にもつながってくるのではないかと。

(会長)

健康社会づくりにおいてもスポーツの振興は有意義である。

ボランティアの育成にもをしっかりと取り組んでいけば、より面白いまちになり、それが定住にも繋がっていくのではないかと。

それでは本事業は、有効ということによろしいかと。

(各委員)

了承。

### **応援税制対象事業No.3：高松産ごじまん品6次産業化等支援事業**

(委員)

マーケティングに関して、有識者のアドバイスなどは実施していないとのことであるが、国の中小企業基盤整備機構、県の産業支援財団などで専門家から無料でアドバイスを受けることができる。そのようなところも活用できないだろうか。

直接そのような機関を訪ねることが難しくとも、専門家を現場に派遣するなど、既存の制度なども積極的に活用し、成果が出るように進めて頂きたい。

(委員)

6次産業化については、金融機関も力を入れており、今後の成長が見込まれる。

(会長)

この事業は成果も上がっており、有効ということによろし

いか。

(各委員)

了承。

**前年度の検証事業の経過報告：「コミュニティ・レストラン  
& 健康広場」事業**

意見、質問なし

**(3) たかまつ創生総合戦略に関する効果検証について**

事務局から、PDCA サイクルによるたかまつ創生総合戦略の  
効果的・効率的な推進を図るため、同戦略の効果検証方法等  
について説明し、発言を求めた。

※総合戦略に搭載する 47 施策のうち、H29 年度の KPI の数  
値が H29 年度の目標値の 90% を下回った 11 施策について効  
果検証を行う。

主な意見

**(施策名：中央商店街の活性化)**

(委員)

丸亀町や南部三町ドームなど、商店街の中で集客できる場  
所があることが、他の都市にはない P R ポイントとなっている。  
る。

(委員)

郊外のショッピングセンターへ行くことが多いが、フェイ  
スブックなどで商店街の中で色々なイベントをしている情報  
や写真を見ると行ってみたいと思う。また、以前に比べると  
賑わいが戻ってきていると感じる。

(委員)

郊外のショッピングセンターと違うのは無料の駐車場が無  
いということである。

郊外のショッピングセンターでは駐車場料金がかからない

ことが大きなメリットとなっており、滞留時間の長さにつながっている。商店街の中で滞留時間をいかに増やすかということが一番大事である。顧客ターゲットを絞って対策を立てることが必要であると思う。

**(施策名：中小企業等の育成と振興)**

(委員)

講習会を開くという手法は、仕事の時間を割いて参加してもらうという点で、実効性に疑問が残る。

本当に中小企業の育成、振興を考えるのであれば、例えば専門家の派遣による聞き取りやニーズ調査など、こちらからアクションを起こし、現地に足を運ぶような取組も必要ではないか。

(委員)

達成率は確かに低いと思う。

自分の時間を割いてでも受講したいというメニューの充実が大切である。引き続き見直しを行い、進めてもらいたい。

(委員)

自身の所属する団体では、定員100人の予定で本日セミナーを開催したところ、1週間の募集で200人の方に参加していただいた。これは、アンケート調査の実施などにより、ニーズをしっかりとつかんだ結果であると思う。このように、ニーズを把握しながら事業を進めていくと、KPIの数値は確実に上がってくる。

(委員)

中小企業向けの研修は国、県などでも数多く実施しているので、内容が重複するものを整理し、ニーズに合致したものを行えば、KPIの実績値が上がるのではないか。

**(施策名：市民スポーツ活動の推進)**

(委員)

各種のイベントにトップアスリートをゲストに招待するなどの工夫をしていくことが利用者増につながる。

(委員)

高松市は、屋島レクザムフィールドなど新しいものもできており、スポーツ振興の面では相当進んでいるといえるのではないか。

**(施策名：観光資源の活用と創出)**

(委員)

現状として、高松が目指している観光というのは旧来型の観光のスタイルが中心のままである。海外の方をはじめ近年の観光客が求めているのは、高松に来るとこんなに楽しいことがあるというアクティビティメニューの提供であり、それを作らなくてはならない。

(委員)

従来型観光との差別化ができていないので、例えば何かテーマを持った体験型観光などの充実策が必要ではないか。

(委員)

どのように観光資源の活用・創出を図るのかというところを考えていく必要がある。

**(施策名：配慮を要する子どもと保護者への支援)**

(委員)

配慮を要する子どもを抱えた保護者が支援を受けて就職に至った件数は把握できていても、働き続けられているかどうかという統計はない。

困難を抱えながらのために、仕事が長続きできず、職を転々とするというケースも多いようなので就職後のサポート

というものも考えていただければありがたい。

### **(施策名：子育てと仕事の両立支援)**

(委員)

待機児童数の数値は、次回の報告では大幅に改善すると期待しているが、一方で不安材料もある。それは、企業主導型保育所がかなり増えている。ぜひ、保育内容についても丁寧にケアしていただけるとありがたい。

なお、実際には保育に携わる可能性が低いと思われる施設運営者の方が、みなし保育士の研修を受講されているケースも見受けられるが、こうした方が保育を行う者としてカウントされていると、本当に必要な保育がされるのか、とても不安に思う。

(委員)

さぬきこどもの国に来るお母さん方の傾向として、以前は就学1、2年前までのお子さんを連れてくる方が多かったが、最近は0歳から2歳までの子どもを連れてくる方がとても増えている。

幼稚園児くらいのお子さんが平日に来ることが以前より減ってきていることから、多くのお母さん方が職場に復帰し、仕事と子育ての両立に向かっているのではないかと思う。

また、私自身の子どもが幼稚園に通っていた時は、先生方の入れ替わりがとても激しかった。預ける側としては、そういう施設にはあまり入れたくないという気持ちも働くので、親が安心して子どもを預けられる環境づくりをお願いしたい。

また、大雨警報などが出ると、高松では迎えにくるようと言われるが、自治体によっては、警報が解除されるタイミングまで避難場所となる学校で預かるところもあると聞いている。大雨や強風の中、子どもが外に出るのは危ないので、警報時の学校や保育所の対応なども考えていただければありがたい。

たい。

(委員)

保育所については、保育士の待遇改善が一番のネックということが分かっているにも関わらず、国でも予算がつかないところが最大の問題ではないかと思う。

また、放課後児童クラブの方では「小一の壁」、「小四の壁」ということがあるかと思う。基本的には「小四の壁」も解消に向かっていくと思うが、高松市では実際のところ入れない状況である。

他の自治体でも様々な取組がされており、例えば名古屋市の「トワイライトスクール」という取組では、地域ボランティアのおじいちゃん、おばあちゃんや、教員志望の学生などの有志のボランティアによって放課後の学校施設を使って預かっていることが特徴的であり有名である。

地域を巻き込んで地域で子育てをするという視点などを参考にしていきたい。

(委員)

世田谷区では、評判の良い島根の保育所に行って世田谷区への分園を誘致していると聞いたことがある。

高松も子育て環境の仕組みづくりを積極的に進めていると思うが、他の自治体でも力を入れている。

(会長)

本学でも認定こども園を始めたが、幼稚園と異なり0歳から就学前までの子どもがいるということで、どのようにしっかりと育てていくかが課題であると感じている。

また、保育士養成も行っているが、保育士については、最近随分と待遇が良くなった印象がある。

今後、高松ならではの保育というものがしっかりでき上がってくると、評価も向上すると思う。

**（施策名：生活習慣病（がん・循環器疾患・糖尿病等）対策  
の推進）**

（委員）

健康広場とボディバンクについて、自分もあまり知らなかった。多くの人に知ってもらうためにPRということが非常に重要である。

**（施策名：タイムリーな情報発信による回遊促進）**

（会長）

実際には、インバウンドの増加もあり、KPI（中央商店街の歩行者通行量（人））の数値より増えているのではないかと。

（住宅・まちづくり企画課）

29年度の実績値が11万8千人に落ち込んでいるのは、通行量を実測した日が春と秋の2回であり、そのうち秋は台風の翌日に当たったためである。

実際には丸亀町商店街等の通行量は増加しており、一定のにぎわいが戻ってきていると認識している。

（会長）

データの測定日によって変化があるのは、やむを得ない面もあると思うが、この指標を見た人は商店街が再生できていないように感じるようになるのではないかと。

丸亀町などは積極的にイベントを行っており、人が集まり、お客さんも入っているという状況があるにも関わらず、それがKPIに表れていない。

KPIを基に評価することが難しいのは、設定した指標の数値だけの一人歩きになりかねないということである。具体的な政策の検証を行う中で、KPIの他に指標となるデータも含めて、総合的に評価すべきである。

（委員）

中心市街地には、シニアの方々が多くなって若者が住めな

くなってきている印象が強い。

若者たちは周辺部の賃貸料が安いところに住んでいる。以前、進めていた南部三町に若者が住めるような街をつくる施策は途切れているのではないかと。

中心市街地の空き家率が意外と高く、特にビルの3階や4階以上は使われていないところが多い。若者が車を持たずに住み、活動できるまちづくりを、商店街の周辺部も含めた中心市街地で行政とも協力しながらしてほしい。

(委員)

商店街の周りには、ライブハウスが点在しており、若い世代も多く来ている。

長く滞在し、商店街を回遊して遊ぶという体験をこの世代にしっかり体験してもらっておくことが、将来的な商店街の維持、活性化に繋がっていくと思う。

このKPIの29年度実績値を、商店街での事業を検討している方が見ると、ひるんでしまうのではないかと。他の事業も同様であるが、指標の設定については、十分に検討した方がよい。

#### **(施策名：コミュニティ活動の支援)**

(委員)

目標値を下回った理由の一つには、行政から受託する事業の増加があり、それへの対応に追われがちとなり、なかなかコミュニティ協議会独自の動きがとれない状態となっているところが多い。

地域のまちづくり計画であるコミュニティプランの推進が十分にできなくなっているというのが、大きな課題である。

#### **(4) その他について**

(事務局)

現時点では、今年度の本懇談会は、今回のみの予定として

いるが、今後、国から次期総合戦略の策定などについての新たな指針等が示された場合、第2回懇談会を開催する可能性があること。今日の懇談会での意見等は今後の事業の見直し等を検討する際の参考とすることを説明。

以上をもって、本日の会議を終了することとした。

(閉会)